

## Kukuna だより (第6号)



## 2学期が始まって3週間

～「見えない踏ん張り」に大人みんなで寄り添う～



朝夕の風に秋の気配が感じられる頃となりました。

2学期がスタートして3週間。学校では行事の準備や日々の学習が進み、子どもたちも先生方もあわただしい毎日を過ごされていることと思います。またご家庭でも、毎朝の様子を見守り、あたたかく送り出してこられたことでしょう。

この「始まって3週間」という時期は、夏休み明けの緊張やプレッシャーを抱えながら走り続けてきた子どもたちの心と体に、見えない疲れがどっと出やすいタイミングです。

朝の行き渋りが始まったり、登校のリズムが崩れたりしたとき、ご家庭も学校も「せっかくここまで頑張っていたのに……」と焦りや戸惑いを感じているかもしれません。けれど、それは後退ではなく、「ここまで限界まで力を振り絞って適応しようとしてきた証拠」です。

心の中のエネルギーが少なくなったサインに気づいたときこそ、家庭と学校と、そして私たちほっとステーションが歩調を合わせ、あたたかいまなざしでお子さんたちを支えていく時期だと考えています。

## 1. 「教室に入ること」だけをゴールにしない

学びや成長の道は、教室の中だけにあるわけではありません。ご家庭で安心して心を休めること、自分の興味のあることに取り組むこと、ほっとステーションのような第三の居場所でだれかとつながること。目に見える成果を急ぐより、目に見えない部分でしっかりと「心の根っこ」を休ませ、育てる時間を大切にしたいと考えています。

## 2. 理由を問うより「ここまでよくがんばったね」の受容を

「どうして行けないの?」と問われても、子ども自身にも言葉にできない不安や葛藤がたくさんあります。いま必要なのは、原因を突き止めることよりも、「ここまでよく踏ん張ってきたね」と、その子の今を受け止めること。家庭も学校も「評価されない安心な場所」であることが、心のエネルギーを生み出します。

### 3. 家庭と学校をつなぐ「あたたかいボタン」

お子さんがしんどさを抱えたとき、保護者の方も、先生方も、互いに自分のかかわりが足りないのではないかと「迷惑をかけているのではないかと」と、孤独な悩みを抱えがちです。

お互いに抱え込まず、小さな様子の変化や「今できていること」を共有しながらチームでお子さんを包み込んでいきましょう。

ほっとステーションはいつでもここに 있습니다。

当ステーションは、子どもを無理に学校へ戻すための場所ではありません。子どもが「自分らしくいられる居場所」を見つけ、エネルギーを充電していくための場所であり、同時に保護者のみなさまと先生方のホッとひと息つける相談パートナーでもあります。

「家庭での関わり方に困っている」

「学校でどんな声をかければよいか、一緒に考えてほしい」

「まだ通所するかはわからないけれど、まずは状況を聞いてほしい」

どのようなお話でもかまいません。ご家庭だけで、あるいは学校だけで背負い込まず、いつでもほっとステーションにお声がけください。

子どもたち一人一人の歩幅を大切にしながら、あたたかいボタンをつないでまいりましょう。



#### ◆ほっとステーションってどんなところ？◆

○「通所」だけが利用ではありません。

・子ども本人はこれられないけれど、お父さん・お母さんだけのお悩み相談

・担任の先生と支援の方向性を一緒に考える、ケース会議

など、大人同士の相談・情報交換の場としてもご利用いただけます。

○見学・体験はいつでも歓迎です。

・静かに本を読んだり、ボードゲームをしたり、スタッフと他愛ないおしゃべりをしたりします。

・決まった時間割にしばられず、自分の過ごしやすいスペースで利用できます。



施設見学や教育相談を

受付けています。

※前日までに予約してください。

電話 079-661-9019

ククナの9月の予定

9月27日(火) スタッフ会議

※27日は14時30分までに迎えをお願いします